

資料3

一実践例1—3年 単元名「円と球」—

時	学習活動	おもな評価規準	TTの留意点	反省
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1点から等距離にある点をたくさんかき、重ねてみる。 ○ まるい形をかく方法を考え、いろいろな方法でまるい形をかき、まるい形を「円」ということ、「中心」「半径」の意味を知る。 ○ 半径をいくつもひいて長さをはかり、どれも同じ長さであることをまとめる。 	<p>【関】 円をかき方法を進んで考えようとする。 【考】 ひもや厚紙で作った自分の簡易コンパスを使った作図を通して半径はどれも同じ長さであることに気づく。 【知】 円の意味、中心、半径の用語の意味や半径の性質が分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 担任Tの宝探しの話に児童と入教Tが応える形で単元導入の意味づけを図る。 ◆ ペア学習を主に作業を進め、担任Tが個別指導にあたる。 ◆ 作業でのひもや厚紙等の役割から用語の意味理解を図るよう補助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地図と担任Tの話に興味・関心をもち、入教Tとの役割分担がうまくいかなかった。 ○ 作業が多かったため、指導を分担して個々の学習を大切にしたい。 ○ 実際の作業から意味づけができた。
2				

一実践例2—3年 単元名「重さ」—

時	学習活動	おもな評価規準	TTの留意点	反省(TT指導)
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろなものの重さを比べる。 ・ 天秤を使う ・ ものの重さで、どちらがどれだけ重いかを調べる方法を考える。 ○ クリップ、両紙などの任意単位を用いて数値化して表す。 	<p>【関】 いろいろなものの重さに関心を持ち、進んで調べようとする。 【考】 長さやかさと同様に、重さも単位の大きさを決めて数値で表せることに気づく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 一人一人の考えを生かして重さ比べができるようにする。 ◆ 分組して学習の様子を評価し、活動の中でどの個のよさを賞賛する。 	<p>【個別単位を用いた活動】 ○ 両紙やクリップを使用したグループは数を数えるのに苦労していたものの、単位としたもののいくつ分として重さの追求ができた。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重さの単位「グラム(g)」を知り、それを用いて重さを表す。 	<p>【知】 重さの単位「グラム(g)」が分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 特に「g」の意味や書き方は個別指導をし、全員が理解できた。 	<p>【円玉の提示・活用】 ○ 円玉を活用して</p>

○ 反省の観点を高める面が弱かった。
○ 「反省の観点を自己課題の「操作活動」に置くことで焦点化することができ、活動の意味づけも明確になった。また、反省を次時以降の指導と関連させることができた。

② 先生方の個性を生かした授業実践記録

○ 自己の課題にそって授業実践する中で、そのまとめ方や反省

記録の取り方が工夫され、个性的になってきた。
『児童の実態や考え方を生かした学習のまとめ』

実践例3 四年 単元名「角」「四角形」

○ 「分度器」の使い方において、次のような児童の実態がみられた。
・ 分度器を置く位置が正確でない。
・ 左右どちらの目盛りから読むんだらよいかわからない。

そこで、分度器を正しく使用するために必要な内容を盛り込み、唱えやすい文章表現にし、「詩」のような形にまとめた。

○ その後、いくつかの単元で、単元の基礎的基本的事項と児童

資料4

角

角度はかりは、かん
90° (L) 180° (F) 270° (G) 360° (H)

見当つけて、さあ出發。
中心あわせて、
0°と辺あわせて、
めもりを慎重に読みま
0から必ず読むんだよ、
最後に見当と見比べて
合っていたら、ゴールイン。

四角形

「垂直」「平行」作りま
のペンシル光線」
「アイスクラムのマーク」
「ドラえもん」の「コケシ」
「垂直」「垂直」「垂直」
二本の直線が直角を
作って交われば、
さあ次は「平行」だ、
両手を出して前向き
と「まっすぐ」で交わ
線路は続くよ、平行に

の実態から「算数の詩(うた)」作りをして児童に提示してきた。「四角形」では単元のまとめの時間に単元を振り返り、児童一人一人が詩を作ることに挑戦した。その結果、児童の考えをもとに学級としての「垂直・平行」「四角形」の詩ができ上がり、動作をつけながら唱える声が聞こえた。

【実践例3についての考察】

○ 評価問題の結果と単位時間毎の児童の感想に焦点をあてて授業の記録として累積してきたものが、教師側だけのものにとどまらず児童側のものもなつて形に表れたものと考えられ、よい結果と言える。

○ 「詩」にするといったまとめ方は、日常生活の中であまり使われていない用具や用語の理解と定着を図る点で、「量と測定」、「図形」の領域では効果的であった。「教材研究による学習指導計画作り」

実践例4 五年「合同な形」

○ 学習活動を教材研究をもとに図式化し、単元の基礎基本をとらえるとともに、単位時間の関連を明確にした。また、各単位時間目標の重点を視覚的にとらえられるようにし、評価との関連を図った。

指導の反省を余白を利用して記録し、学習指導計画を生かす形とした。